

# 南アルプス市立八田中学校 前期自己評価書

平成27年8月21日(金)作成

学校長：鈴木 正一

記述者：教諭 飯野 武重

1. 校訓 「日日新」

2. 本年度の学校教育目標

「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成

- は 励んで学び、確かな知識を持つ生徒 (知育) → 知の力
- つ 強い精神と身体を持つ生徒 (体育) → 体の力
- た 助け合い、いたわり合う心を持つ生徒 (徳育) → 心の力

3. 学校経営方針

- (1)職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。
- (2)生徒理解を深め、一人一人のよさや可能性が活かされるよう努める。
- (3)教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
- (4)家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。

4. 生徒の努力目標

- (1)授業にしっかり取り組もう (主体的・能動的・積極的に取り組めたか)
- (2)さわやかに挨拶をしよう (今日の、この出会いを大切に出来たか)
- (3)思いやりの心を行動につなげよう (相手の身になって考え行動できたか)
- (4)主体的に活動しよう (3本の木を大切に、創意工夫を持って取り組めたか)

5. 教師の努力目標

- (1)社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師
- (2)異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見いだし伸ばしていく教師
- (3)教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師
- (4)教員と児童生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師

6. 学校経営の努力点

- (1)知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。
- (2)自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。
- (3)豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。
- (4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。
- (5)家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。

## I 全体評価

1. 教職員の自己評価

(1) 本年度の特徴

《A・B (肯定的評価) において》

① A・B (肯定的評価) の合計が90%未満の項目について  
「特色のある学校2 (84%)」が90%未満であった。

② A評価が10%以上向上した項目について  
「生徒指導6」「特別活動2」「特別活動3」「開かれた学校1」

A評価が10%以上減少した項目について  
「学校運営2」「学校運営5」「生徒指導3」「生徒指導4」「生徒指導5」

《C・D (否定的評価) において》

③ C (否定的評価) が10%増えた項目について  
なし

D (否定的評価) が、ついた項目について  
なし

④ C・D (否定的評価) の評価がまったくない項目  
「学校運営1・2・3・4・5・6」「教育課程1・2・4・5」「生徒指導1・2・3・4・5・6」  
「特別活動2・3」「特色ある学校1」「開かれた学校1」 以上18項目であった。昨年は14項目。

## (2)平成26年度より改善・向上した項目

A・Bが90%未満は昨年度同様1項目だけであった。③のCが10%増えた項目は、昨年は2項目、同じくDのついた項目は昨年は1項目であったが、今回は共に0項目であった。

④のC・D(否定的評価)の評価が全くない項目については、24項目中、昨年は14項目であったが、今回は今は18項目となった。昨年度CD評価が高かった「学校運営3」は23%→5%に改善された。

A評価で10%低下した項目が、昨年は2項目であったが今回は3項目増え5項目となってしまった。項目としては「学校運営2・5」は合唱に係る項目であり、「生徒指導3・4・5」はあいさつやいじめや安心した生活に係る項目である。合唱講師の先生が評価して下さった先生方の合唱への関わりの高まりや生徒会のあいさつ運動やいじめへの取組が、先生方の意識を高め「まだまだできる」とB評価にした結果であると考えられる。

## (3)2学期の取り組み課題(自由記述より)

「特色のある学校2」の教師側のC評価が、昨年9%→16%に増えている。しかし、生徒のアンケートでは肯定評価が昨年72%→80%と向上している。教師側にかかる負担が大きいことがマイナス評価につながったと思われるが、校内研究会等を利用しながら、望ましい自主学習ノートのあり方について再検討する必要がある。

生徒会活動を中心に生徒一人ひとりが八田中生として、向上していく意識をもって行事に取り組んでいる姿がある。しかし、あいさつやTPOに応じた言葉遣いや態度、服装の乱れや時間を守るなどのルールの徹底という点ではまだまだできる点が多くある。今後も全教職員が共通理解を持って指導していくことが必要である。

## 2. 学校生活に関する生徒アンケート

### (1)本年度の特徴

#### A・B(肯定的評価)の合計が80%未満の項目(全校集計から)について

○全26目中(除携帯電話項目),1項目である(昨年度4項目)。生徒が学校生活全般に渡り肯定評価している傾向が如実である。「学校運営1」(75%)のみである。

\*本年度28項目あるが、昨年度と比較できるのは、新しく加わった「学校生活全般3・4」の携帯電話の保有と家庭での携帯電話におけるルールを除いた26項目である。

### (2)3年生の評価について【昨年前期2年→本年前期】

#### ①2年次よりA・B(肯定的評価)が向上した項目について

26項目中21項目(昨年度の3年生15項目)である。うち10%以上向上した項目は、16項目(昨年度の3年生1項目)あった。90%以上の項目11項目(昨年度の3年生10項目)

「学校運営1」(63%→75%) 「学校運営3」(88%→93%) 「学校運営6」(80%→92%)  
「教育課程1」(84%→96%) 「教育課程2」(71%→86%) 「教育課程3」(71%→85%)  
「教育課程4」(67%→88%) 「生徒指導1」(70%→96%) 「生徒指導2」(79%→94%)  
「生徒指導3」(70%→86%) 「生徒指導5」(83%→90%) 「生徒指導6」(91%→100%)  
「特別活動1」(80%→88%) 「特別活動2」(87%→97%) 「特別活動3」(70%→81%)  
「特別活動4」(84%→94%) 「特色ある学校1」(89%→99%)  
「特色ある学校2」(66%→81%) 「開かれた学校1」(83%→90%)  
「学校生活全般1」(84%→94%) 「学校生活全般2」(79%→90%)

#### ②否定的評価(C・D評価)が高い項目(20%以上)について

1項目だった。(昨年度の3年生3項目)

「学校運営1」(25%)

\*他の25項目は、A・B評価(肯定評価)がすべて80%以上であった。(うち90%以上が16項目)

### (3)2年生の評価について【昨年前期1年→本年前期】

#### ①1年次よりA・B(肯定的評価)が向上した項目について

26項目中7項目(昨年度の2年生12項目)である。

「学校運営2」(97%→99%) 「生徒指導1」(84%→88%) 「生徒指導2」(86%→90%)

「生徒指導3」(88%→91%) 「特別活動1」(84%→89%)

「特色のある学校1」(93%→96%) 「学校生活全般1」(89%→95%)

#### ②否定的評価(C・D評価)が高い項目(20%以上)について

1項目だった。(昨年度の2年生11項目)

「学校運営1」(23%)

\*他の25項目は、A・B評価(肯定評価)がすべて80%以上であった。(うち90%以上17項目)

### (4)1年生の評価について

①否定的評価(C・D評価)が高い項目(20%以上)について

7項目だった。(昨年度の1年生 0項目)

「学校運営1」(27%) 「教育課程2」(21%) 「教育課程4」(25%) 「生徒指導1」(21%)  
「特別活動1」(27%) 「特色ある学校2」(21%) 「学校全般2」(21%)

\*他の19項目は、A・B評価(肯定評価)がすべて80%以上であった。(うち90%以上6項目)

(5) 2学期の取組課題

- ① 「学校運営1」については、「はつた」を頭文字とする学校教育目標が各教室の前に掲示してあり、学活や集会・各種通信等、機会を捉え日々啓発している。しかし、今回の自己評価結果から、生徒への浸透が不十分であることが明らかになった。アンケート質問の説明不足や生徒の理解不足による評価の低さも考えられるが、それぞれの教育活動の目標と学校目標を常に関連づけることにより、「知・徳・体」のバランスのとれた育成がさらに可能になると考える。
- ② 「特色のある学校2」において、2年目の取り組みである。「自主学习ノート」の取り組みについて、昨年度は72%と低かったが、本年度は80%を超えることができた。  
校内研究会でノートのまとめ方や提出方法、評価等を教職員で共通理解を図りながら地道に取り組んだ成果であるとも考えられる。今後もこの取組を続け、本来の目標である生徒の家庭学習の定着を図りたい。
- ③ 「学校運営2」は全校98%、「特色ある学校1」は全校96%と高い肯定評価を示しているが、八田中伝統の3本の木「合唱・部活・応援」に関連した項目である。2学期には最大の行事である学園祭や合唱コンクールがあり、さらに生徒たちの向上心や達成感を助成したい。また、教育的効果のある行事を展開する必要もある。
- ④ 「生徒指導6」のいじめに関する肯定評価も97%と高い数値を示している。道徳や学級活動はもちろん、教科においても常に横断的に人とのかかわり方を考えさせ、全教育活動を通じて100%にする取組が必要である。
- ⑤ 3年生は昨年度に比べ、肯定的な項目が非常に多くなってきている。これは、最上級生としての自覚から意識が高まった結果と考えられる。しかし、肯定的な項目でも2項目「特別活動3」「特色ある学校2」が81%とぎりぎりの結果であった。2学期は学園祭や合唱コンクールがあり、さらに活躍できることが予想され向上が臨まれる。また、進路も本格的になり、ますます「自主学ノート」の活用も図り、家庭学習の定着を目指したい。
- ⑥ 2年生においても「学校運営1」の1項目を除く25項目が80%の肯定評価を示し、そのうち90%越えは17項目であった。しかし、「教育課程3」82%、「特色ある学校2」81%という結果なので、道徳授業はもちろん、学校生活全般において道徳性が育つように指導する必要がある。  
また、「自主学习ノート」においても、校内研究等においてさらに効果的なものになるように研究を進めることが必要である。  
また、1年次に比べ若干肯定パーセンテージが下がったところもある。学校生活が見えてきたということもあるが、一方では中学2年生特有の「中だるみ」ということも考えられる。各行事向けて、真剣に前向きに取組ませる指導が大切である。
- ⑦ 2・3年生が肯定評価80%を越えられなかったのが1項目だけであったのに対し、1年生は7項目であった。中学になっての初めての学校評価アンケートといこともあり、様子がかめなかったのも否めない。教師側の説明を加えながらアンケート調査を行うことが大切である。  
特に低かったのは、2・3年同様の「学校運営1」73%、その他「教育課程4」75%、「特別活動1」73%であり、「教育課程2」「生徒指導1」「特色ある学校2」「学校全般2」は79%であった。「学校運営1」については①で述べたように、「教育課程4」については、学級会活動等において有意義な話し合い活動を展開する必要がある。「特別活動1」については、進路学習や2年生での県内めぐりの学習が行われてくるので、生徒にとっても充実する取組を実施したい。

## Ⅱまとめ(成果と課題)

この自己評価では、評価基準として教職員自己評価のA・B評価が90%以上、生徒アンケートのA・B評価が80%以上に設定した。この基準からは「肯定感と満足感」が伝わり、大きな教育成果のひとつとなると捉える。

- 学校運営については、教師・生徒とも高い評価が表れている。「学校運営1」は、生徒75%と教師100%と大きなずれを生じているが、教師側が学校目標を大前提に、それぞれの教育活動を指導し取り組ませることが必要である。「学校運営2～6」は生徒も90%を越えており、教師側との整合性もあり、今後も生徒が満足するような取組を行うことが大切である。

- 教育課程については、「教育課程1～5」の教師側の肯定評価は95～100%、生徒側は82～88%となっている。生徒側も80%越えの良い評価を示しているが、教師側とのギャップは否めない。

生徒側の88%の評価は「教育課程1」の教師側の授業のやり方や教材についてであり、教師側の努力を大いに認めていく。

しかし、この生徒側と教師側の評価のギャップを真摯に受け止め、生徒側の視点に立った学力、道徳、特活面の向上を図るさらなる努力を続けることが大切である。

- 生徒指導については、「生徒指導1～6」の教師側の肯定評価は100%、生徒側も86～97%と高い肯定評価を示している。強いて生徒側の低い項目を言えば、「生徒指導3」「生徒指導4」の86%である。「生徒指導3」においては、保護者との連携をより図りながら生徒育成に努めることが大切である。また「生徒指導4」については、あいさつや提出物などの基本的習慣の確立について、教師側の指導で満足することなく生徒の本質を変えるような取組方について研究・研鑽を積み重ねていかなければならない。

「生徒指導6」のいじめについて、生徒側の肯定評価は97%と高い評価を示したが、3%とあることを危機管理的要素として捉え、いじめ0を目指して日々強固に取り組んでいくことが必要である。上でも述べたが、いじめは犯罪であるという認識のもと100%にすることが必要である。

- 特別活動については、「特別活動1～4」の教師側の肯定評価は95～100%、生徒側84～93%である。どの項目も高い評価が表れているが、特に「特別活動2」93%、「特別活動4」92%となっている。行事や部活動に関する項目であり、生徒達の高い関心を集めている項目であると捉えられる。生徒の自主性を伸ばしながらさらなる教育的効果が期待できるように指導していくことが大切である。

- 特色ある学校について、「特色のある学校1～2」の教師の肯定的評価は100%と84%、生徒側は96%と80%である。「特色のある学校1」は合唱に関することであり、合唱が八田中学校の伝統となっていることを教師側も生徒側も認める肯定評価であると言える。このことから、合唱コンクールに向けてそれぞれが満足のいく取り組みをすることが大切である。また、「特色のある学校2」は「自主学習ノート」についてである。生徒側の肯定評価も昨年度の72%→80%と向上している。その反面教師側は昨年度90%→80%と低くなっている。このギャップは毎日の「自主学習ノート」の点検に追われるあまり、生徒の本質を実感できないあらわれとも思える。しかしながら、生徒側から肯定評価が上がった以上は、より効率の良い「自主学習ノート」のあり方を研究、指導していく必要がある。

- 開かれた学校について、「開かれた学校1」の教師側100%、生徒側88%と共に高い肯定評価を示している。本校では年3回の学校開放を実施している。その中でも来校数をもっとも多いのは、学園祭や合唱コンクールなどの学校行事である。

子どもの成長した姿や活躍する姿を見る楽しみは、来校の明確な目的である。また保護者、地域との連携の大きなきっかけでもある。今後もより多くの来校者が訪れるよう、生徒・保護者に啓発していく必要がある。

- 学校生活全般について、「学校生活全般1」の学校生活が楽しいは肯定的評価が昨年度87%→91%と向上している。「学校生活全般2」の授業がわかりやすいは肯定的評価が昨年度84%→88%と向上している。

生徒達にとって「学校生活が楽しい」や「授業がわかる」ことは学校教育目標の重点である。さらなる向上を目指してより楽しい学校生活を送れるよう学級、学年などあらゆる教育活動を活かしながら全教職員のバックアップ体制で取組んでいくことが大切である。

「学校生活全般3」の携帯電話の保有率は1年51%、2年69%、3年81%と学年を追うごとに保有率が高くなっている。「学校生活全般4」の携帯電話でのルールについては1年68%、2年52%、3年43%と学年を追うごとにルールが緩くなっている。

今後も携帯電話におけるトラブルがないように、情報を高く持ちながら生徒指導主事を中心に指導を図っていく必要がある。

肯定評価80%を越えなかったのが昨年度は4項目、本年度は1項目のみとなっている。この高評価は、生徒との信頼関係を築いてきた先生方の日々の努力のあらわれであると確信している。

この高評価に甘えることなく、高い評価はさらに伸ばせるように、また低い評価については改善が図れるように全職員で共通理解を持ちながら取組むことが必要である。